

福祉系大学とキャリア形成に関する一考察

- A 大学の実践から -

関西福祉大学 藤原 慶二 (会員番号: 6433)

関西福祉大学 菅 由希子 (会員番号: 6221)

キーワード: 福祉系大学、キャリア形成、キャリア教育

1. 研究目的

2010(平成22)年、大学設置基準が改正された。すべての大学で大学におけるキャリア教育が文部科学省により位置づけられ(大学設置基準第42条の2)、この基準が2011(平成23)年度から適用されることとなった。これを契機に本格的なキャリア教育の取り組みが始められたが、その内容は就職に焦点化されているものが多い。中央教育審議会(2011:17)によればキャリア教育とは「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」とであると定義している。

福祉系大学に限らず、大学全体では就職について専門に対応をする課やセンターが設置されている。本報告で実践として取り上げるA大学でもこのようなセンターが設置されており、就職に関する対応や相談の役割を専門的に担っている。これまではこのような組織がキャリア教育に取り組んできたが、その内容はマナー教育やエントリーシートの書き方など就職対策に重点が置かれていた。

このような現状はA大学にだけ見られるものではなく、福祉系大学の多くに共通しているのではないだろうか。また、福祉系大学に限らず、大学全体をみても少なくない。そこで、福祉系大学が取り組むべきキャリア教育について、A大学がすでに実践としてはじめている内容からキャリア形成の視点に立って今後の展望を明らかにする。なお、ここでいう福祉系大学とは社会福祉士養成校のことである。

2. 研究の視点および方法

本報告では福祉系大学のキャリア形成に視点を置く。A大学ですでに取り組みが始められている講義「キャリア形成」の実践から今後の展望について以下の3つの視点から明らかにする。第1に、A大学の実践について述べる。A大学では2010年度からキャリア形成という講義科目を開講している。そこでは就職だけではなく、大学教育を通じた「人としての成長」を目的とするシラバスとなっている。このことからキャリア形成が目指す「キャリア」について、キャリア教育、キャリア形成のA大学の講義で考えられているものを提示する。そして、ここで実践されているキャリア教育、キャリア形成の整理をする。

第2に、第1で整理されたキャリアを講義へどのように反映しているのかについてA大学のシラバスや実際の講義から述べる。ここでは、専門職養成に特化するのではなく、その前提となる「人としての成長」に向けたキャリア形成の位置づけを整理する。そして、今日の福祉系大学において重点が置かれている専門職養成課程に関する科目と教養科目、キャリアに関する講義の相互の関係を明らかにする。

第3に、これまでに明らかになったことを福祉系大学の教育カリキュラムとキャリア形成の今後について述べる。これまでの専門職養成や就職を主としたキャリア観ではなく、人としての成長にまでその視野を広げたキャリア形成の展望を明らかにする。

3. 倫理的配慮

本報告において個人が特定される内容のものはない。

4. 研究結果

本報告のテーマとなっているキャリア形成は未発展の段階にある。キャリア教育に関する研究は一応の成果があるが、キャリア形成にまで視野を広げたものは数少ない。そして、実際に大学で取り組むキャリア形成やキャリア教育では「キャリア」の捉え方によりその内容が異なるのが現状となっている。そこで、この「キャリア」が指す意味を明らかにすることで大学が形成あるいは教育すべきキャリア像を共有することができる。本報告では大学におけるキャリア教育は就職対策だけではなく、卒業後までを視野に入れた「人としての成長」を含むキャリア形成の視点に立たなければならないことが明らかとなった。このことは社会福祉士資格取得に重点が置かれている福祉系大学も例外ではない。つまり、キャリア教育や社会福祉士養成課程はキャリア形成を構成する一つなのである。

そもそも大学は就職に向けたキャリア教育をはじめ、人としての成長を目的とした教育、専門職養成などさまざまな性質を有している。これら全体を通して、大学では卒業後、あるいは就職後のキャリア形成を目的とした教育に取り組まなければならない。このような性格を有しているにも関わらず、福祉系大学の多くが資格取得や就職に焦点が当てられている。しかし、そこには「人としての成長」を基礎に据えなければならない。

学校教育法第83条に「学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする」と規定されている。これに対応してA大学をはじめとする福祉系大学の多くが社会福祉士養成課程に関する科目だけでなく教養科目が位置づけられている。ただ、資格取得を目的に大学進学をしている学生にとって教養科目の関連性、重要性は理解しがたいものとなっている。そこで、キャリア形成の視点に立って大学での学びが専門職養成だけではなく、教養科目から発展的に考えていくことを伝えなければならない。そこには大学教育で学び、身につける「人としての成長」を基礎に据えなければならない。これらのことを講義や演習を通して学生自身が考え、学ぶことが求められる。そして、それは学生に対してそれぞれの科目がどのように関連しているのかを示さなければならないのである。

以上のことから福祉系大学は資格取得、就職、大学の性質のいずれの観点においてもキャリア形成に取り組まなければならないことが明らかとなった。

引用文献

中央教育審議会(2011)『今後の学校におけるキャリア教育の在り方について(答申)』文部科学省